

# 環境保全型 農業

## 伝統農法による 草原景観づくり

伝統的に続けられてきた農法が、里地の景観と多様な生物相を維持してきました。それは同時に持続可能な農業のあり方を示しています。そのシステムを現代で成り立たせることは困難を伴いますが、工夫次第で、また現代だからこそ認められる価値の付加により可能になります。

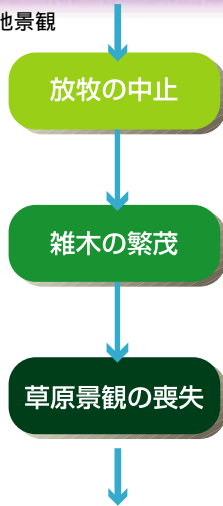
システムを現代で成り立たせることは困難を伴いますが、工夫次第で、また現代だからこそ認められる価値の付加により可能になります。

事例 島根県大田市<sup>おおだし</sup>

### 伝統農法が作りあげた里地景観



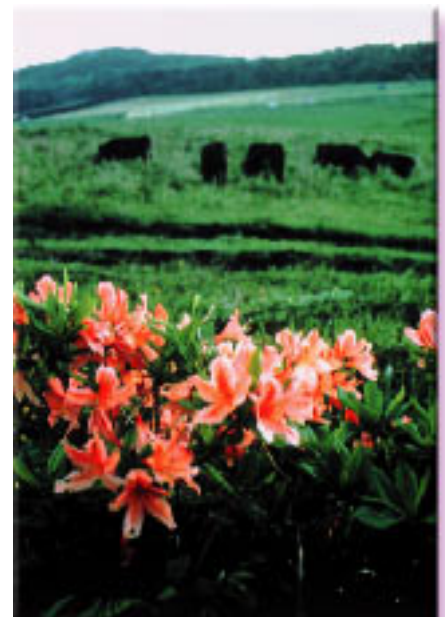
山地放牧により維持される里地景観



草原維持のための野焼きの復活  
重労働である防火帯づくりは牛の放牧で、野焼きは都市からのボランティアが参加して行う



牛に親しみ、草原で遊び、牛乳や牛肉を味わう交流が行なわれ、里地づくりにつながる



放牧再開でレンゲツツジや草原植生が再生した

## 生物たちのシステムを活用する

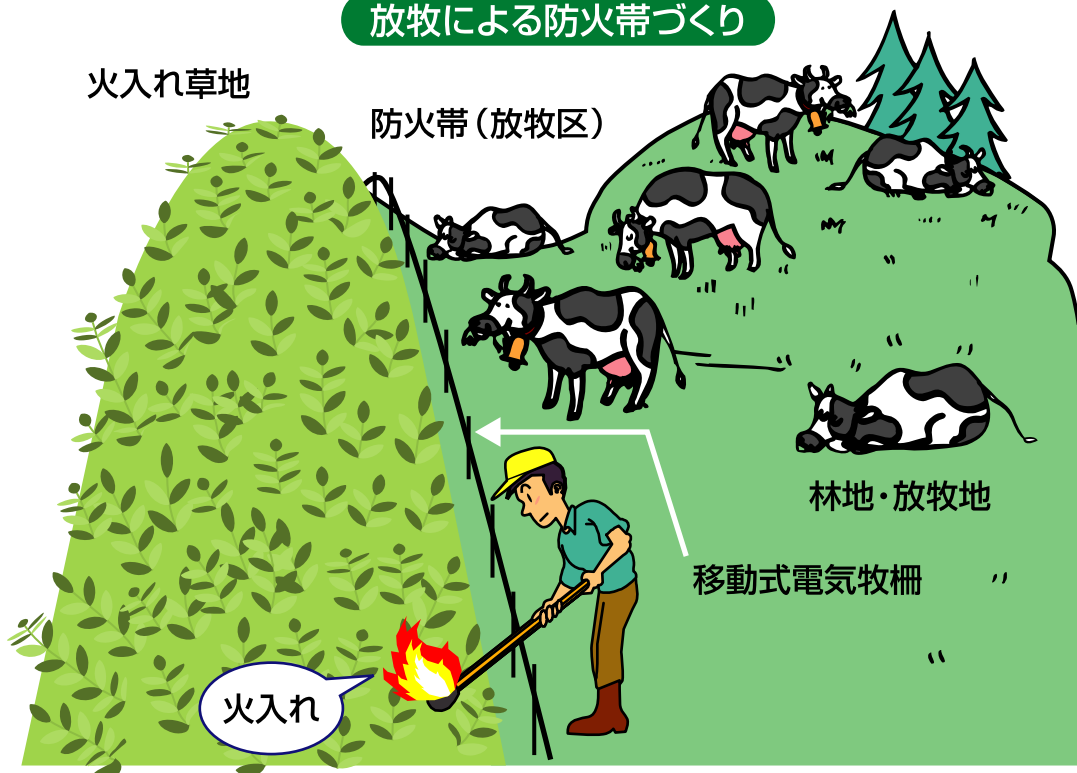
草原維持のための野焼きには、延焼を防ぐための防火帯の草刈り(輪地切り)という重労働が伴います。三瓶山では、電気牧柵を張って、輪地切りの箇所を牛で放牧し人手を省いています。この方法は、モーモー輪地として阿蘇や秋吉台に広がっています。

三瓶山山麓や宮崎県諸塚村などでは、林間放牧をして下草刈りの機能を持たせ、林業や森づくりと放牧を両立する方法も試行されています。



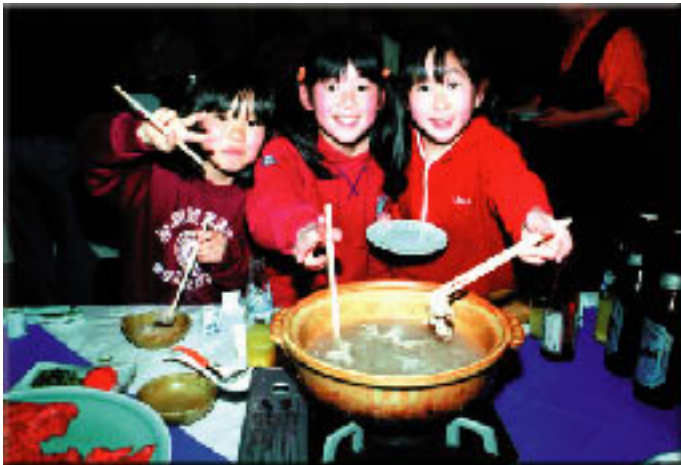
電気牧柵を設けて牛に草を食べさせ輪地切りする

## 放牧による防火帯づくり



## 自然を基調にした農業の安全性という価値

三瓶山では、国内産の牧野草で育てた牛の安全性が見直され、学校給食に使われるなど経済的な価値も高まっています。



子どもたちに地元の食材を



山地放牧で育てた安心できる牛肉